

大麦栽培こよみ【グリーンな栽培体系】 (品種：はねうもち)

重点取り組み事項

- (1) 稲刈取後の速やかな排水対策の実施
- (2) 土壌改良資材の施用による pH の適正化
- (3) 10月10日～25日の播種
- (4) 基肥一括施肥栽培
 - ・出穂期の追肥
- (5) 分施肥栽培
 - ・基肥減肥、年内追肥、生育に応じた穂肥の施用
- (6) 適切な除草剤使用等による雑草対策
 - ・カラスノエンドウの抜取
- (7) 赤かび病2回防除の徹底
- (8) 生産工程管理記帳、GAP の取り組み

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
圃場準備	播種	分けつ期	幼穂分化				出穂期		成熟期
圃場の選定・団地化 額縁排水溝の作溝 補助暗渠の設置 土壌改良資材の散布 高機能バイオ炭・ 鶏糞堆肥の施用	種子消毒 耕起 施肥 播種 除草剤散布 1日作業	排水溝の手直し	12月上旬目標茎数 条間25cmの時、 100～110本/m (400～450本/m ²)		排水溝の手直し	ドローン追肥① 4月中旬目標穂数 条間25cmの時、 95本/m (380本/m ²)	ドローン追肥② (穂揃期) 第一回赤かび病防除 第二回赤かび病防除 (7～10日後)	収穫	乾燥 調製

○土壌改良資材

資材名	施肥量 (/10a)	備考
麦豆一番	60～80kg	
宙炭(そらたん)	7000 ㍩/10a	高機能ハ
鶏糞堆肥	300kg/10a	イオ炭

○播種

播種時期	播種量(/10a)	条間の目安
10月10～25日	条播 6kg	20～30 cm

○種子消毒

使用時期	薬剤名	10a 当たり量	備考
播種前	ベンレートT水和剤 20	乾燥種子重の0.5%	種子粉衣

○除草剤

使用時期	雑草種	除草剤名
播種直後	広葉・イネ科雑草	リベレーターG 粒剤
生育期間中 (多発雑草によって使用)	広葉・イネ科雑草	ハーモニー細粒剤 F
	広葉雑草	バサグラン液剤
	カラスノエンドウ多発圃場	アクチノール乳剤、MCP ソーダ塩
収穫後	カラスノエンドウ多発圃場 ※農薬使用回数は次作に加算	ラウンドアップマックスロード

○施肥基準

	肥料名等	時期	施用量(/10a)
一括施肥体系	大麦マスター(34-2-3)	耕起・播種と同じ日に	35kg
	アグリフラッシュ 444	出穂期	20kg
分施肥体系	「アグリフラッシュ 444」を使用する場合	耕起・播種と同じ日に	40kg
		11月中下旬(生育に応じて)	(20kg)
		消雪直後(生育に応じて加減)	15～25kg
		幼穂 7mm(出穂 20～25 日前)	15kg
		出穂 7～10 日前	10kg
グリーンな体系	(基肥なし)	—	—
	尿素(ドローン追肥①)	消雪後	10kg
	尿素(ドローン追肥②)	出穂期	4 kg

○赤かび病防除

使用時期	薬剤名	10a 当たり量	備考
穂揃期	トップジンMゾル	0.8 ㍩	無人ヘリ防除
穂揃期の7～10日後	ミラビスフロアブル	0.8 ㍩	無人ヘリ防除

○収穫時期の判断

成熟期は穂の軸、茎や葉が完全に黄化したとき、粒を爪先で押しつぶしたときに弾力性がなく、ろうの硬さになっている時が目安である。(籾水分30%以下) また、空洞麦を少なくし、充実した実を得るため、水分の高い状態での早刈りはしない

収穫前に、必ずカラスノエンドウを抜き取る。※種子が混入すると選別が困難になる。

※深さは25～30cmを基準とし、排水口にしっかりと繋げる。

